

主日の福音 2025/4/17(No.1349)

聖木曜日 (ヨハネ 13:1-15)

罪を覆うのはイエスが与える神の愛



今日、洗足式が予定されています。最近、洗足式に協力してくれる人を確保するのが難しくなってきました。そこには何かしらの理由があるのですが、洗足式がいつの時代でも「あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない」(13・14)というイエスの命令・イエスの模範を受け入れる道具であってほしいと願います。

イエス様は、いよいよ救いの計画が完成に近づいて、弟子たちに深い愛をお示しになります。「イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」(13・1) イエス様が「この上なく」示された愛は、いったいどれほどでしょう。

イエス様が示された模範は、弟子たちの理解を超えていました。足を洗おうと弟子たちに近づくイエス様に、弟子たちは困惑しています。「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」(13・6)。

最近同じ光景を私は目撃しました。司祭に叙階された洪神父様の最初の祝福を受けようと、中村倫明大司教様が洪神父様の前に跪いたのです。「大司教様、あなたがわたしの祝福を受けるのですか？」それを見た私は心の中で考えました。「大司教様、とんでもないことです」と。

まことの神の祝福を、洪新司祭を通して大司教様が願ったのですから、「とんでもない」と考えた中田神父の考えが間違っていることは確かです。しかし私の心に最初に浮かんだ言葉は残念ながら「さすが大司教様。すばらしい」ではなく、「とんでもないことです」だったのです。

弟子たちには、僕の姿を取られたイエスの模範が理解できませんでした。すでにイエスを裏切る考えを抱かせていたイスカリオテのユダさえも足を洗ってあげるのは、考えられないことです。客観的にユダは、取り返しのつかないことをしようとしているのです。

ここにおられる皆さんが、足を洗ってもらいたくない理由を持っているのは知っていますが、イエス様は足を洗うことでこの上なく愛し抜こうとしておられます。それを拒む理由として、足を洗ってもらいたくない人の述べる理由は十分ではないと思います。

イスカリオテのユダさえもイエス様は包み込もうと、弟子たちの前にかがみ込もうとしておられます。神の愛だけが、弟子を包み、覆うことができます。今日、洗足式に協力してくださる方々は、人類すべてを包み、覆う神の愛に自分を委ねようとしている方々です。

今年、洗足式のために一歩前に進み出ることができなかった人も、来年は前に出てほしいです。この上なく愛し抜かれたイエスに、自分を委ねる人がいるなら、イエス様が残された聖体の秘跡も、それを取り扱う司祭職も、この世界に残り続け、イエスの愛の記念を現代に証しし続けることができます。

聖金曜日(ヨハネ 18:1-19:42)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。